

日本は世界唯一、原子爆弾を投下せられし國なり。第二次世界大戦終結より七〇年。日本寫眞家協會は「ヒロシマ・ナガサキの原子爆弾―被爆より七〇年」と題せる寫眞展を八月四日より開催してあり。その展示會の寫眞のキャプション英譯を依頼せられたり。あまりに壯絶なる寫眞多く、長く正視するは能はざりき。當時、専門學者以外は爆弾の種類知る者少なく、軍部は寫眞部員を現地に向かはせ可能なる限りの寫眞撮影を命じたり。徐々に現状明らかになるにつれ、また占領軍日本に著任し、撮られし寫眞は破棄せよとの命令下る。さはさりながら、軍部の寫眞部員の大多数は新聞社の報道寫眞部員にて、相當なる枚數破棄されず隠され、今日にその慘を傳ふるを得たり。今回の展示はそれら隠されたる寫眞多し。原爆に關はる寫眞はサンフランシスコ講和條約締結後に、初めて一般の目に觸るるを得たりと明記せらる。

仕事なれば、悲惨なる寫眞と向き合ふは已むを得ざる所なれど、斯くの如きは、我が未だ嘗て知らざる經驗なりき。

それがし、青春は大半を米國にて過し、米國は第二の故郷なりと常々思ひたるが、かかる口にするもおどましき影響を及ぼす爆弾を、いかに戦争とはいへ、投下するとは、許されてあるべけんや。これを投下せざれば、愚かなる戦争の更に繼續せらるるの外なかりけんとする記述多かれど、何たる所業、胸締め附けらるる思ひなりき。

戦争とは人が人を殺すなり。かくのごとき結果を出來するは必定なれば、如何なる手段を講じんとも、戦争を避くるに如くなきは言を俟たざる所なり。

平成二十七年十二月十四日受附